

■進級及び卒業の要件等

【成績評価】

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業科目の成績評価は、科目の修了時において各科目試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。

〈成績評価基準〉

各教科とも総合的な評価により、A、B、C、Dの評価を行う。単位認定はC以上とする。

1. 評価は科目試験、出席率、授業態度、検定取得状況、課題・レポート状況などにより総合的に評価する。
2. 評価はA、B、C、Dの4段階とする。
3. 評価基準は次の基準に従って評価し、A～Cの評価のものについてのみ、その科目の修得認定を行う。

評価	基準
A	80点以上 (優) 科目に対する理解及び日常の授業態度が特に優秀である
B	60点以上 (良) 科目に対する理解及び日常の授業態度が良好である
C	40点以上 (可) 科目に対する理解及び日常の授業態度が普通である
D	40点未満 (不可) 科目に対する理解及び日常の授業態度が劣る

4. 実習等の授業科目(点数が明確につかないもの)においては、レポート提出状況、実習態度、出席率、成果(達成目標)を総合的に判断し評価する。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

■成績評価とGPAポイント

成績評価	内容	GPAポイント
A	認定	3.0
B		2.0
C		1.0
D	単位不認定	0

※成績評価は原則として科目ごと、その終了時に評価する。ただし、再試験等により評価しなおすことがある。また、同一名称であっても、末尾に1・2または、A・B等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱う。

■GPAの算出方法

個々の授業科目についての成績評価に、それぞれにGPAポイントを設定し「各科目の単位数×GPAポイント」の和を「履修単位数合計」で除して算出したものがGPAになる。

※各成績評価に対応するGPAポイントは上表を参照する。

〈GPA算式〉

$$GPA = \frac{(3 \times A \text{ 評価単位数} + 2 \times B \text{ 評価単位数} + 1 \times C \text{ 評価単位数})}{\text{履修単位数合計 (D評価で不認定になった単位数も含む)}}$$

学科、コースにより受講科目数や授業時間数、実習授業の割合が異なっている場合でも、測定する指標とします。

【進級及び卒業基準】

進級及び卒業するために必要な条件として、各学科の履修年次ごとに、出席時限数字、科目単位、検定単位等について最小所要数の基準が定められている。この基準を満たさないと進級及び卒業することが出来ない。

〈進級基準〉

進級は進級認定会議を経て学校長が認定する。なおかつ、以下の基準を満たすものとする。

	出席時限数	科目単位	検定単位	学費
1 年次	4 5 0	3 2 単位	1 単位	納入済み
2 年次	8 5 0	6 2 単位	—	納入済み
3 年次	1 2 0 0	9 6 単位	2 単位	納入済み

※ 3・4 年課程の 1 年次、2 年次の進級基準に検定単位の所要数はなし。

(注 1) 進級基準が満たされない場合、基準を満たすまで条件付き進級(仮進級)の扱いとなる。

なお、取得単位数が基準より著しく少ない場合、当該年次に留年となる。

(注 2) 各検定の指定単位数(検定単位数)については学生便覧を参照。

〈卒業基準〉

卒業は卒業認定会議を経て学校長が認定する。なおかつ、以下の基準を満たすものとする。

	出席時限数	科目単位	検定単位	学費
1 年課程	4 0 0	3 0 単位	2 単位	納入済み
2 年課程	8 5 0	6 2 単位	4 単位	納入済み
3 年課程	1 2 0 0	9 6 単位	4 単位	納入済み
4 年課程	1 6 0 0	1 2 4 単位	4 単位	納入済み

(注 3) 卒業基準が満たされない場合、基準を満たすまで卒業延期の扱いとなる。なお、取得単位数が基準より著しく少ない場合、当該年次に留年となる。

【専門士の称号付与】

卒業基準に基づき、本校の課程を修了したことを認定するとともに、修業年限 2 年以上の学科については専門士の称号を授与する。

工業専門課程の経営情報科・情報システム科を終了した者には専門士(工業専門課程)の称号を授与、また、商業実務専門課程の総合ビジネス科・医療福祉ビジネス科・ペットビジネス科(2 年制)を終了した者には、専門士(商業実務専門課程)の称号を授与する。